

学校ホームページ作り　－エピソード3－

6 カウンターをつける　－平成16年度－

毎日更新するようになる前、どれだけの人が見てくれているのか知りたくなりました。他の学校のように、なんとか勤務校のホームページにも付けてみたいと思うようになりました。しかし、いったいどうやつたら付けられるのか、分からないです。すると、区の学習情報センター（現在はありません）のホームページにその方法が書かれてあったのに気が付き、付けることができました。

次に取りかかったのは、トップページです。ホームページの表紙とも言えるこのページに、いかに目をひくものを入れるかが課題でした。

当時の区では、1校だけ飛び抜けた情報教育先進校がありました。そこで、そのトップページをまねしていくことにしました。表を用いて、項目を見やすく整理することにしました。

しかし、ホームページビルダーというソフトは、初心者には難解なものでした。うまく文字が入らなかつたり、表がくずれてしまつたりすることもありますから、慣れてきても扱いにくいつつあります。

それでも、色を付けたり、動くアニメーションを入れたりすることができるようになると、大変楽しくなってきました。

そのうちに、更新したところが分かるようにしました。「どこを変えたのか分からない」という声が上がったからです。そして、時がたつうちに、アクセス数が上昇し、成果が数で見えるようになりました。常連客が増え、平成16年12月20日、ついに1万件を超みました。

アクセス1万件を記念して、毎日更新することを心に誓いました。

7 情報発信の基地へ　－平成17年度－

学校は情報にあふれています。毎日更新することになっても、発信することは山ほどあります。ホームページは、情報発信の基地です。ただし、発信には責任が伴います。場合によっては、失職します。

①個人情報

個人情報は絶対に掲載してはいけません。ここでいう個人情報は名前、住所、電話番号、保護者名等の情報です。

②写真

顔写真は個人情報です。後ろ姿が一番無難ですが、横向きならOKとします。万一正面の場合は、米粒くらいの大きさにする

とともに、画像を粗くします。

③タイミング

運動会や遠足の日、天候により実施の有無を知らせるのに使いました。始めは、好評でした。ところが、約束の時刻にパソコンがクラッシュして復旧に5分ほど要してしまって、たくさんのクレームが来ました。「約束を守れないとはひどい」「責任を果たせ」という電話とメールの応酬で、いかにホームページが期待されていたかが分かりました。情報が遅れるという大変な不始末の結果、情報発信を約束するときは、幅をもたせるべきという反省が生まれました。

④学校名

勤務している学校が東京都にあるのは当たり前ですが、初めてホームページを見る方には、それが分からないのです。都道府県名を入れて初めてどこの学校かが分かります。住所や電話、FAXやメールなど基本的な情報があると、コンタクトが取りやすいことからしっかりと入れました。

⑤校歌

校歌の楽譜や歌詞に著作権があるということを初めて知りました。自分の学校の校歌は、掲載して当たり前という意識でした。作者の承諾が必要です。作者を捜しましたが、分かりません。やがて、音楽著作権協会（JASRAC）が所有していることが分かりました。このホームページにアクセスして、承諾を申請し、メールで送られてきたバナーを貼って、勤務校の校歌をホームページに正式に掲載できました。

現任校の場合も同様に行いましたが、すでに著作権が消滅していました。

⑥学校経営計画

「校長が替わると、学校が変わる」とよく言われます。それは、学校経営計画が変わることからです。これは、言わば政策公約なのです。

そこで、トップページの上の方に配置しました。どういった教育を目指しているのかをはっきりと知らせるべきだと考えました。教育課程や生活時程も合わせて載せました。

⑦校内研究

どんな校内研究をしているかでその学校の特色が分かります。

そこで、研究の成果を共有するために研究資料を載せました。公開することによって、教員はますますしっかりとした研究にしていく意識が高まりました。　（続く）